

## 5. ホモロジー完全列 (2)

### Mayer-Vietoris 完全列 , いくつかの計算例

#### 1 Mayer-Vietoris 完全列

$K$  を単体的複体 ,  $K_1, K_2$  を  $K$  の部分複体で  $K = K_1 \cup K_2$  を満たすとする .  $i_1 : K_1 \cap K_2 \rightarrow K_1, i_2 : K_1 \cap K_2 \rightarrow K_2, j_1 : K_1 \rightarrow K, j_2 : K_2 \rightarrow K$  をそれぞれ包含写像とすると , チェイン複体の短完全列

$$0 \longrightarrow C(K_1 \cap K_2) \xrightarrow{\alpha} C(K_1) \oplus C(K_2) \xrightarrow{\beta} C(K) \longrightarrow 0$$

が存在する . ここで ,

$$\alpha(x) = (i_1)_*(x) \oplus (i_2)_*(x), \quad \beta(x \oplus y) = (j_1)_*(x) - (j_2)_*(y)$$

である . これより , 次の Mayer-Vietoris ホモロジー完全列が導かれる .

定理 1. 以下の完全列が存在する .

$$\cdots \xrightarrow{\partial_*} H_q(K_1 \cap K_2) \xrightarrow{\alpha_*} H_q(K_1) \oplus H_q(K_2) \xrightarrow{\beta_*} H_q(K) \xrightarrow{\partial_*} H_{q-1}(K_1 \cap K_2) \longrightarrow \cdots$$

Euler 数については ,

$$\chi(K) = \chi(K_1) + \chi(K_2) - \chi(K_1 \cap K_2)$$

が成立する .

#### 2 いくつかの計算例

これまでの手法を用いて計算できる単体的複体のホモロジー群の例を挙げる .

錐複体のホモロジー群が 1 点のホモロジー群と同型であることを用いると  $n$  次元単体  $\sigma$  について,  $\sigma$  の定める単体的複体  $K(\sigma) = \{ \tau \mid \tau \prec \sigma \}$  のホモロジー群は

$$H_q(K(\sigma)) = \begin{cases} \mathbf{Z} & q = 0 \\ 0 & q \neq 0 \end{cases}$$

となることがわかる. また, 対応するチェイン複体の  $n-1$  次以下の部分に注目すると  $K(\sigma)$  の  $(n-1)$ -skeleton のホモロジー群は,  $n > 1$  のとき

$$H_q(K(\sigma)^{(n-1)}) = \begin{cases} \mathbf{Z} & q = 0, n-1 \\ 0 & q \neq 0, n-1 \end{cases}$$

となる. ここで, 次の同相が存在する

$$|K(\sigma)| \cong D^n, \quad |K(\sigma)^{(n-1)}| \cong S^{n-1}$$

ここで,  $D^n$  は  $n$  次元球体,  $S^{n-1}$  は  $n-1$  次元球面である. この単体分割について対  $D^n, S^{n-1}$  のホモロジー完全列を用いると

$$H_q(D^n, S^{n-1}) = \begin{cases} \mathbf{Z} & q = n \\ 0 & q \neq n \end{cases}$$

が得られる.

演習で構成した単体分割を用いて Mayer-Vietoris 完全列を適用するとトーラスと実射影平面のホモロジー群について次のような結果が得られる. 三角形分割によらないことは後に証明する.

$$H_q(S^1 \times S^1) = \begin{cases} \mathbf{Z} & q = 0 \\ \mathbf{Z} \oplus \mathbf{Z} & q = 1 \\ \mathbf{Z} & q = 2 \end{cases}$$

$$H_q(\mathbf{R}P^2) = \begin{cases} \mathbf{Z} & q = 0 \\ \mathbf{Z}_2 & q = 1 \\ 0 & q = 2 \end{cases}$$